

サプライチェーンを通じ、インドの綿花農家の課題解決を目指す

# プレオーガニックコットンプログラム

1960年代の緑の革命以来、インドでは遺伝子組み換え種子とそれに適応する農薬が多量に使われてきました。その結果、貧困層が多い綿花農家にとって農薬の購入及び使用が経済面や健康面で大きな負担となっています。この状況を、ビジネスを通じて改善していくことを目指し、2008年にプレオーガニックコットンプログラムを開始しました。年々拡大している取引量やプログラムに参加する農家の状況等を報告します。



### プレオーガニックコットンプログラムとは

プレオーガニックコットン（以下POC）プログラムは、2008年から伊藤忠商事と（株）クルックが共同で実施する「インドのコットン農家のオーガニック栽培への移行を支援するプログラム」です。3年の移行期間に、有機農法の指導やオーガニック認証の取得サポートを行い、プレミアムを付けて買い取り保証することで、農薬や化学肥料による環境・健康への被害、農家の経済的負担を軽減することを目的としています。

### POC取引量の拡大

2008年のプログラム開始からこれまでに2,346世帯の農家が参加し、うち1,184世帯がオーガニックの認証を取得しました。また綿花の取引量は、アパレルメーカーや自然化粧品メーカーなど40社を超える製品に導入され、2012年に1,000トンに達しており、2013年には大手客先との取組みがPOCの売上と市場拡大を牽引し、取引量1,500トンが見込まれています。今後は欧米市場など海外にも拡大し、2017年には取引量10,000トン、取扱高50億円規模を目指しています。POCの継続的な取引量の拡大により、インドの

オーガニック栽培農家数の増加実現を通じ、より多くの綿花生産者の生活環境の向上を目指します。

	綿花数量	関連商品売上合計
2012年	1,000トン	3億円
2015年	5,000トン	23億円
2017年	10,000トン	50億円

### BCtAに承認

POCはミレニアム開発目標（MDGs）\*にも貢献することから、2012年、国連開発計画（UNDP）が主導する、商業活動と持続可能な開発を実現するビジネスを促進する世界的なイニシアティブ（取組み）である、「ビジネス行動要請（BCtA）」に応える取組みとして高く評価され承認されました。この承認により、開発途上国の人々をサプライチェーンに取り入れるインクルーシブビジネスの日本発の成功事例として、POCプログラムの国際的な認知度が向上しました。



\* ミレニアム開発目標（MDGs）：極度の貧困と飢餓の撲滅など、2015年までに国際社会が達成すべき8つの開発課題

### POC採用企業様の声

#### エコや社会貢献をビジネスに繋げる

エコや社会貢献に対する意識の高まりから、風力発電を使った紡績での商品は2013年のマーケットに合致する企画になると思い、2012年4月には伊藤忠商事の担当者と共にインドに飛び、POCの農家や風力発電の様子を確認させていただきました。2013年3月末から婦人、紳士、子どものカジュアルウェアを、4月からは肌着も販売を開始しています。2013年は100万枚の販売計画で、来年は更に拡大を計画しています。



北出 耕三氏

(株)イトーヨーカ堂  
衣料事業部  
SPA推進室総括マネジャー

2012年12月にインドのPOCプログラムに参加する農家の状況を調査した法政大学 吉田秀美准教授の現地調査報告です。



**吉田 秀美氏** (左から3番目)  
法政大学大学院公共政策研究科准教授  
最近の研究テーマは企業のCSR活動やソーシャルビジネスを通じた貧困削減

POCプログラムは、インドの農家の生計向上や生活改善に向けたユニークな取組事例として、国際協力の観点からも評価されている。開発途上国の農村支援に商社が関与することの第1の強みは、ODAプロジェクトのように実施期間限定の予算にしばられていないので、ビジネスと開発の両立が成立する限りは活動を継続していける可能性が高いこと。第2に大口の顧客との取引関係を活かして販売規模を拡大できるので、今後もより多くの農家を支援していける可能性が高いことが挙げられる。一方で、現場の農民からはどのように見られているのだろうか。2012年12月にインド人リサーチャーの協力を得て現地調査を行った。

プログラム開始当初からの活動地であるマディヤ・プラデシュ州では有機農法を推進するラジエコファームがPOCプログラムの技術普及や綿花の買い上げを担当している。フィールドスタッフが各村を回って参加希望者を募り、在来種の種子の無料配布や、牛糞や葉草を使った肥料・殺虫剤作りの技術指導、認証団体から有機認証を受けるための支援も行っている。調査では、POC参加農家120世帯及び近隣の非参加農家60世帯を対象に、収入や支出、生活の変化などを聞き取りした。この結果、(1) POCに参加した農家は綿花の生産財(農薬・肥料・種子)への支出を大きく減らしている、(2) 余剰資金は住宅の改善や子どもの教育、債務の返済に回されている、(3) 半数以上の参加者が健康状態

(特に皮膚のかゆみなど)の改善を実感している、といった点が定量的にも明らかになった。

また、参加者からは「有機栽培はすべての作物の収量が上がる」という声が聞かれた。一般的に聞かれる「収量減や作業量の増加」などのデメリットを挙げた回答者はほとんどいなかった(おそらく、在来農法に関する知識や技術が不十分で、もともとの収量自体が低かったところへ、適切な有機農法が持ち込まれたために、このような回答が得られたのだろう)。

以上に紹介したPOCの効果は、インドの社会問題解決に一石を投じる事例として高く評価できるだろう。インドの貧困問題の象徴ともいえるのが、借金を苦にした綿栽培農家の自殺問題なのである。遺伝子組み換え種の種子や肥料・農薬を購入するために高利貸しから借金したものの、天候不順などの不作で借金が返せなくなり自殺に至る件が少なくない。POCプログラムでは、無料配布する種が在来種で自家採種したものが翌年も発芽するため、種子購入費や農薬購入費がかからず、肥料についても牛糞などを地域で入手するので化学肥料よりも安くなる。POCプログラムは近代的な農業技術の導入による緑の革命とは逆を行くものだが、それが確実に農民の生計の安定に繋がっている点を強調したい。

POCプログラムに参加した理由 上位5件  
(回答数116名。選択肢から3つまでの複数回答。)

主な参加理由	回答数	割合
農薬・肥料が購入不要になる	85	73.3%
種子の無料配布	57	49.1%
有機栽培の研修	47	40.5%
生産コスト削減	42	36.2%
すべての作物の収量が上がる	32	27.6%

健康状態の改善 (回答者数116)

	体調全般	咳	頭痛	目まい	目の状態	皮膚の状態
改善した	41	21	25	21	9	63
割合	35.3%	18.1%	21.6%	18.1%	7.8%	54.3%

POCプログラム担当者より

インド農家と消費者を繋げる

伊藤忠商事がPOCプログラムを開始して5年が経過しました。POCプログラムへ参加する農家数は着実に増加しているものの、未だに数多くの農家が貧困による負のスパイラルから抜け出すことができていません。POCプログラムは生産者であるインド農家と消費者を「繋げる」活動です。製品を通じて日本や欧米諸国の消費地で、世界が抱える貧困問題への「気付き」が生まれ、社会に「変化」をもたらすことが、繊維原料トレードで長年の実績とプラットフォームを有する我々の社会への責任と受け止め、本プログラムを推進していきます。



**大室 良磨**  
ファッションアパレル  
第三部繊維原料課長